



竹 — 伝統からハイテクまで —

THE SEYAMAS 取締役

勢山佳子



9月まだ夏の日差しが残る暑い日、私は全国竹産連の事務局長W氏と国際会議場に向いました。竹産業の全国組織なるものがあって、毎年何処かの県なり府で全国から同業者や関連企業が集まり、全国大会が開催されています。竹の産地の県庁林産課の方達や、近年は放置竹林のボランティアも各地から多数参加され、今年は愛知県そして来年は大阪かも知れません。

私が「大阪ですら国際会議場どうですか？隣にリーガロイヤルも有って宿泊も便利ですよー」と声を上げた為、事務局としては聞いて見に行かない訳にはいかなかったと言う次第です。

それにしても会議場で対応してくださったM氏は完璧でした。話が無駄なく適切にしてユーモア有り、かつダンディー。こういう方が居られるということが強みだと良い勉強になりました。北ヤードに新しい国際会議場ができて恐れるに足らず！ですね。

大阪は元々天下の台所と言われ日本中の物資が大阪に集まって、又、全国へ売り捌かれていきました。竹も同様で全国に向けて売りに売れたと聞いています。私の大お祖父さまの言葉で「儲けようと思うな、人が儲けさせてくれる」常に紳商たれ！信用を重んじ謙虚であれ、と代々大阪の発展に貢献すべく遺伝子を組み込まれていたか、未だ健在の明治生まれの父からは祖祖父や祖父の活躍交友、大阪の古き良き時代のことを聞かされて育ちました。

現在竹の業界では、竹の無限の可能性に着目した異業種大企業の参入が著しく、竹は既にあらゆる分野で研究され、人目につかないところで多く使われています。医薬品・飼料・土壌改良・衣料その他日常のあらゆる分野で、竹の持つ有益にしてユニークな何より成長が早く食物繊維や乳酸菌が豊富で土に還る究極のエコ資源として、過去のものと思われていた竹が今や時代の先端を走る新

素材の一つとなっています。

アジアでは既に竹の交配による品種改良も進み、特に中国などは国策として竹に莫大な予算を組み様々な研究、例えば竹の実を稲に組み込み栄養価の高い強い米を創り出しています。中国中部で孟宗竹が開花したようですが、何十年に一度の開花を待つまでもなく人為的に交配させ更に交配種を登録すべく盛んにDNA鑑定をしていると漏れ聞いています。

世界の食料不足が懸念されている一方で、食料であるはずのトウモロコシからバイオエタノールを、と言われていますが、竹からのバイオエタノール生産の実用的生産プロセスは日本で既に発表されています。これに放置竹林の竹も利用すべくシステムを構築して、日本のエネルギー自給率の向上に大いに役立てたいところです。

ところで、今開発中の大阪駅の北ヤードに、CO₂吸収率や森林浴効果が木よりも高いと実証済の竹林公園を是非とも市民や観光客の為に作っていただきたいのです。又、地球的視野を見据えた持続可能な竹の利用を促進するハイテク基地、例えば竹による放射能除染の技術を開発出来れば、日本は世界に大いに貢献出来ることでしょう！

私は今、世界でも希少種である中米の竹チェースクエアコロナリスを眺めつつ、撫でると脳が活性化し肌年齢が若返るという南米の草を撫でながら、この原稿を書いています。

2012年Antwerp, Belgium於、9th世界竹会議では、伝統から先端技術までをテーマに世界中から更なる先端の研究発表や意見交換がなされることでしょう。

プロフィール

勢山竹材店 代表代行
社) 大学女性協会 大阪支部長